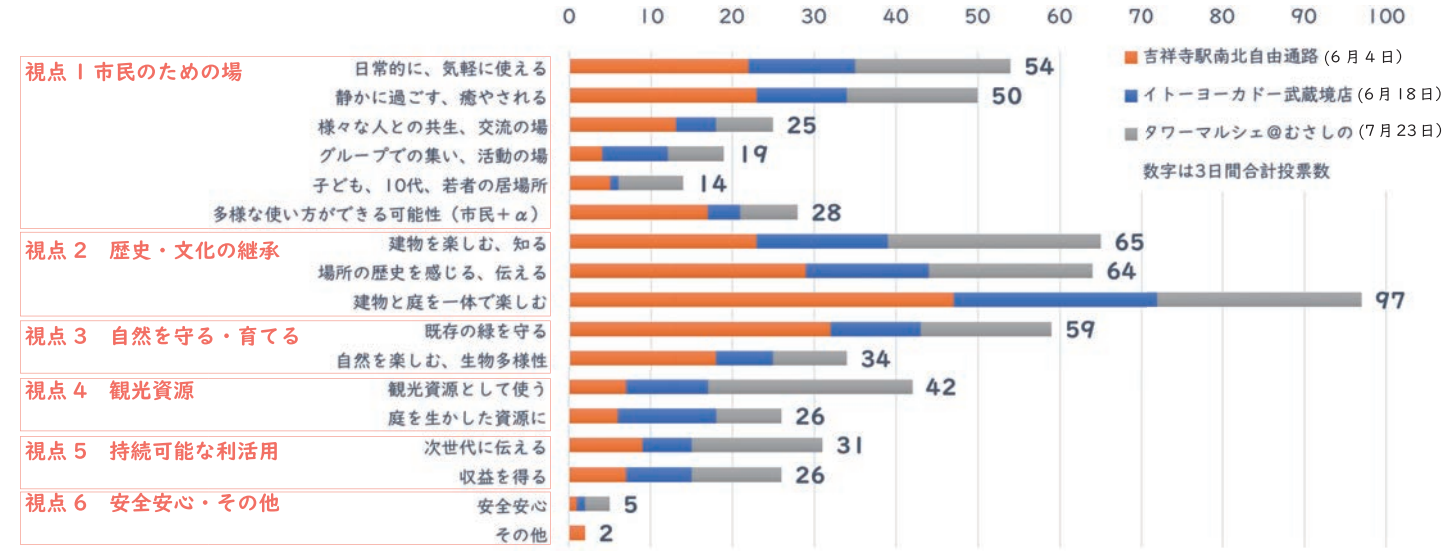


パネル展示と意見の聞き取り (オープンハウス) 集計結果

まちの人に旧赤星邸の利活用について意見を聞きました

■シール投票の結果 Q. 旧赤星邸の利活用にあたっての視点、大切にしたいことはなんですか？(1人3つ選んで回答)



いただいたコメント (抜粋)

建物の魅力、続きの庭の価値が大切。実業家の邸宅だったことやその背景を伝えることが大切。
静かなカフェで庭をゆっくり見ながらくつろげる場所になると良い。
しっかり管理するためにも、少額でも料金を取る方がいい。時々無料開放にしてはどうか。
子どもから大人まで幅広く気軽に使えると良い。ロケや撮影の収益で注目度があがると良い。

海外の人もこのような建物には関心があるので、インターネットを活用してどんどん発信した方が良い。
子どもや将来に向けて若い世代に使ってほしい。気軽に誰でもは反対。大切に活用してほしい。
アントニン・レーモンドの建物は貴重。建築の文化が日本では軽視されている。建物の楽しみ方を知ってほしい。旧赤星邸で美術を楽しむように光や空間を楽しめると良い。

引き続き検討してほしいこと

～第4回ワークショップより～

■社会実験で検討してほしいこと

数時間滞在した場合などのシミュレーションをしてほしい。
近隣への配慮、建物・庭のそれぞれの耐久性観点から、建物・庭それぞれの収容人数がどの程度なのかを把握してほしい。
社会実験では何をもって成功とするのかを明確にしたい。例えば1回目ですべてを踏まえ、2回目は目標を定めて成功か否かを判断してほしい。

■管理運営

100年後も愛される場であるために必要なしくみを作してほしい。一部の人だけが関わると高齢化など停滞化してしまう。関心を薄れさせず、いろいろな人が関わる機会を作っていくしてほしい。

完成しすぎない、不自由さを残すような、余白のある管理を大事にして欲しい。
庭から建物内に入るときは土足も可とするのかなど、一体的な活用を考えるうえでの庭と建物の使い方(動線やルール)を検討してほしい。

■安全性と改修

外壁が撤去もしくは低くなると、道からの見通しが良いので溜まり場などになりやすく、安全になる。一方、何もなくなってしまうと騒音の問題、近隣のプライバシー、また小さい子どもの飛び出しが心配。程よいしつらえの検討が必要。
耐震対策やバリアフリー対応改修をした場合、どの程度現状の意匠が保全できるのか気になる。できる限り残してほしい。

今後の予定

～未来へつなぐ旧赤星邸と庭園プロジェクト(社会実験)～

旧赤星邸の利活用における周辺の住居環境に及ぼす影響の度合いや運営手法を探るため、ワークショップで出された意見やアイデアをもとに社会実験を行います。最新情報は市ホームページをご覧ください。

みなさまの声を聞かせてください！ Webにて、旧赤星鉄馬邸の保存・利活用に関する意見を募集しています。いただいたご意見は利活用検討の参考にします。



問合せ先 〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 武蔵野市役所 総合政策部 資産活用課
電話：0422-60-1973 fax：0422-51-5638 E-mail：sec-shisankatsuyou@city.musashino.lg.jp

旧赤星鉄馬邸の保存・利活用を考える 市民ワークショップニュース

令和5年8月発行 / 武蔵野市 総合政策部 資産活用課

vol. **4**

旧赤星鉄馬邸と建物の文化財的価値と豊かな自然環境を次の世代へつなぐため、庭と建物との一体的な利活用を検討しています。全4回の市民ワークショップでは、利活用で大切にしたいこと、保存・利活用のアイデア、次世代につながるしくみを一緒に考えてきました。

このニュースレターでは、毎回のワークショップの内容を市民の皆様へ発信してきました。今後の検討経過や実施状況は随時市ホームページやSNS等で発信していきます。



市長を囲んで、参加者の集合写真

ワークショップ実施の流れ

- 第1回 1/22(日) 旧赤星邸を知ろう
- 第2回 3/19(日) 旧赤星邸の利活用で大切にしたいことを考えよう
- 第3回 5/14(日) テーマに沿って利活用アイデアを考えよう
- 第4回 7/9(日) 次世代につながるしくみを考えよう

第4回ワークショップを実施しました

日にち：令和5年7月9日(日)

時間：13:30～16:30

会場：成蹊大学

参加人数：31名

(6班編成で実施)



当日のプログラム

前回のふりかえりと今日の進め方

情報提供と事例紹介

グループワーク

これまでの議論を確認し利活用アイデアを深めよう

グループ発表とメッセージ交換

おわりに

第4回ワークショップ（最終回）
次世代につながるしくみを
考えよう

今回のグループワークでは、今後引き続き検討してほしいことを確認したのち、前回話し合った利活用アイデアを実現に向けてブラッシュアップし、今後の社会実験で取り組む方法を考えました。各班の利活用アイデアは全体で発表した後、良いと思ったアイデアにメッセージを送りました。約半年にわたる市民ワークショップは、今回で最終回となりました。4回を通じて出された意見は社会実験や保存活用計画策定委員会などに反映させていきます。



各班でまとめた利活用アイデア

みんなの持ち寄りマルシェ 1班

かつて個人の邸宅だった家でくつろぐような雰囲気や歴史に興味のない人にも、マルシェに訪れることをきっかけに、足を運んでもらい素晴らしさを伝える。農産物販売のほか飲食、パフォーマンスもあり、色々なものを持ち寄って楽しむことができる。夢を持っている人がその夢を実現する場にする。



▼今後に向けて
農産物販売は、JAとの調整や中学生や若者が運営に参加するための仕組みづくりが必要。マルシェから運営費をどう捻出するか？

やりたい人のチャレンジの場所になるっていいですね。新しい名物が「赤星」からはじまった！素敵です。

訪れる人の間口を広げることで、多くの人に赤星邸の魅力を知らせてもらうという逆の発想が新鮮でした。色々な人が集まりそうなアイデアですね！

武蔵野の実家 ～建物と庭でくつろぐ異日常体験 2班

日常とは少し異なる「異」日常を活かし、別荘や純喫茶のような場としてくつろぐことができる場。半屋外の空間で楽しめるようにする。毎週末程度開催を目標に。事業者が管理し、住民はプログラム参画できるようにする。



武蔵野市≒実家≒別荘→リフレッシュ！この構造が面白い。

実家というキーワードが住居であった赤星邸にマッチしている。語り継ぐということにもつながる。

レーモンド建築資料館・レーモンド先生の本棚 2班

アントニン・レーモンドが設計した建物の資料や情報を集めて公開し、他のレーモンド建築の管理者との交流。登録有形文化財部分でないところを活用できるとよい。一般市民、建築専門家、学生などを対象とし、レーモンド事務所などにも協力を得ながら運営。



▼今後に向けて
関東大震災を機に赤星家が転居したこともあるので、関東大震災から100年経っているのだから、今年は節目になりそうだ。

別館は比較的内装などチャレンジングなことができそうなので、良いアイデアだと思います。「〇〇の本棚」というタイトルが素敵ですね。

赤星邸のコアのファンを巻き込む形の発案がとても面白い。

探検！みんなの赤星邸 3班

庭と建物を楽しみながら知ってもらい、記録に残していく。1階+庭では季節のコンサート、カフェ。2階では建物見学にあわせた展示。土日は開いてほしい。コンサートは、武蔵野文化生涯学習事業団などに運営を任せるとも検討。建物を現状のまま残せるか等、専門家との連携が必要。



▼今後に向けて
社会実験1年目：①クイズラリー（旧赤星邸や武蔵野市の歴史にまつわるもの）を市民で実施。②小規模、小編成の演奏会（庭と室内両方で実施）③あなたの赤星邸（写真コンテスト）④アンケート

社会実験2年目：①ARで当時の赤星邸を再現②1年目のアンケート結果をふまえた取組み③写真コンテスト2年目④アンケート
社会実験後：建物見学、カフェ、季節のコンサート、イベント

赤星邸に飲食は必要がないとの考えに賛成です。

クイズラリーは誰でも参加できて楽しそう。すぐできそう。

参加者コメントシートより

- ・貴重な機会をいただきありがとうございました。これまで地域に関わることが少なかったのが楽しく臨むことが出来ました。私達の意見、議論が反映されることで「自分事」が進むと思います。
- ・旧赤星邸に継続的にかかわる人々、組織が必要だと思います。市民参加、世代間、幅広い参加がポイントだと考えます。

晴れの舞台でも使える市民の憩いの場 4班

赤星鉄馬邸ならではの空間や広い厨房を活用する。1つの村のように多様な機能があり、人が集まる場に。隣接区や鉄道沿線の住民、近隣住民を対象に、庭でビールを楽しんだり、市内の店舗がキッチンカーなどで短期出店する。1階は憩いの空間、2階は資料館的機能にする。近隣と対話を重ね、安心してプロジェクトの味方になってもらう。



▼今後に向けて
庭の世話はボランティアで実施する。見守る人がいて子どもが安心して使えるようにする。業者選定もポイント。

お試し出店のアイデアは「吉祥寺」というブランドを有しているのだから、実現できれば武蔵野市以外からも多くの人に来てもらえる場所になりそうですね。

市民が近隣住民との対話を重ね合意形成しながら社会実験していくのは、時間はかかるがスムーズに本番にいけそうで良い。

ナミュールノートルダム修道院のヨウヘキちょっと困ったことを話せるよろず相談室 4班

修道院の歴史を受け継ぎ、いろいろな人が語り、聞ける場に。こども食堂や親子食堂、シェルターや支援につなげる場所。市民の少し余った時間や経験を集結させ、関連する専門家や関係機関との連携を図る。



▼今後に向けて
①需要を捉える：市報などで興味がある人が集まる場を作って話を聞くほか、元修道院の方や近所の方に話を聞く。
②近隣の方の理解を得る
③当事者に場所の存在を周知

武蔵野市ならではの企画案として賛同します。誰もが立ち寄り、利用できる場になれば良い。

実施へのハードルが高そうですが、昨今困難に直面している人の助けに少しでもなれば、意義があると思います。「修道院跡」の活用法として良いアイデアです。

旧赤星邸を知る 5班

見学や資料展、コンサート開催の他、ミュージアムショップ。歴史的な説明をパネル展示し、各部屋には当時の写真を展示。コンサートは月1回程度、常設展は金～日・祝で開催する。



コンサートは市民の芸術家に協力を得る。業者によってイメージが変わることがないように、市民からさまざまな形で協力を得られるようにする。コンサート等やオタク向けグッズ販売で収益を得る。建築雑誌や学会で広告、市で特設Webサイトをつくる。

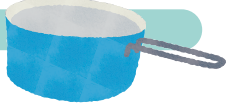
▼今後に向けて
社会実験では、コンサートなどの使い方ごとの音の測定値、データを残し検証する。

社会実験で様々なデータを取る必要性、おっしゃる通りですね。

新たな庭のあり方を追求するという視点は良いと思います。

庭の中で料理を楽しむ場 5班

庭で料理を中心に人が集まりやすくする。申請制とし、年齢を問わず使え、プレーパークのように火を使えるようにする。すでにある厨房をうまく使えると良い。



▼今後に向けて
プレーワーカーなどスタッフの要否、保育園のニーズ等を確認する。火を使うので、防火管理者や消防署や市への届け出など確認が必要。社会実験では様々な観点から検証する。

火を使うのは限られた公園でしかできないので、近場であるのはキャンプ好きとしてうれしい。

庭を守っていこうという意見が多い中、歴史の変化で変わって来たのだから「使いたおそう」という視点は面白かったです。

皆で作る祝福・祝祭の場 6班

末長く使っていくための次世代へのプレゼント、開かれた活動の場で市民が市民を祝福する。
①家族写真を撮る会：カメラマン（プロ、同好会）を配置し、時間予約制で、1日数組の家族写真の撮影。多世代で多様な記念日に利用。
②結婚記念のロケーションフォト：ロケーション代、カメラマン代（撮影代）、プリント代から収益を得る。
③絵ハガキ販売：ロケーションPRをかねた絵ハガキ販売も行う。自分たちの記念日フォトを撮影した場所の絵ハガキなので、ロケーション利用した人が使ってくれるとよい。



皆で作る祝福の場、ロケーションを活かして収益を得るアイデアが良かったです。記念写真いいですね。

家族写真はいいかも！結婚式はムリでも写真なら！と思いました。自然の中で思い出の場所にもなるし。

レーモンド建築のアニメによる聖地化 6班

旧赤星邸の素晴らしさ、唯一無二の建築遺産であることに加え、緑濃き学園文化都市、武蔵野市の魅力を伝える。パネル・模型の展示やガイドツアー：資料館的利用し、建築科出身者がガイドする。アニメで建物の聖地化：赤星邸での収益や集客につなげる。



▼今後に向けて
アニメは、市民や専門学校生などによる制作委員会を立ち上げコンペをし、制作は制作会社に依頼する。制作費は市の予算とクラウドファンディングや会社からの寄付でまかなう。市、現地事務所、NPO、市民による協働運営体制で日常の管理運営を行い、ハレの日には実行委員会を組織する。

レーモンド建築のアニメによる聖地化、集客のためレーモンドに意義があったと思います。とても大きなアイデアですが、小さくとも実行に移したいですね。

アニメ化！全く違うアプローチで赤星邸の活かし方が出たことに意義があったと思います。とても大きなアイデアですが、小さくとも実行に移したいですね。